

中期行動計画 平成25年～29年

～福山 地域経済の成長戦略～

平成24年9月

福山商工会議所

中期行動計画 策定にあたって

福山商工会議所は、昭和金融恐慌による慢性的な不況が続いている中の昭和4年8月に設立され、以来83年間会員の皆様とともに、関係各位のご支援・ご協力のもと地域総合経済団体として、地元経済の発展に寄与してまいりました。

現在、わが国経済は長引く世界的な景気の低迷からの立ち直りの兆しが見え始めた中起こった、東日本大震災という未曾有の大災害や原発事故、長期化するデフレや世界経済を牽引してきた中国をはじめとした新興国の減速感、超円高局面の継続や原油価格の高騰、エネルギー問題等々総じて大変厳しい状況にあります。

当地域においても、都市の成長エンジンとしてリードしてきた多種多様な業種が揃う製造業の分野において、長引く景気の悪化や輸出不振など多くの企業が苦境に立たされており、産業空洞化の進展も強く懸念されています。特に、地域の産業活動を支え、雇用の維持・創出にも重要な役割を果たし、地域経済の根幹を成す中小企業や小規模企業は先行き不透明感が拭えず、疲弊の度を深めています。

こうした中、福山商工会議所は常に地域経済社会をリードしてきた商工会議所として行政等との連携をさらに強化し、地域特性に配慮した積極的な事業展開により、地域経済全体の底上げを図って行かなければなりません。

このような認識のもと、福山商工会議所では地域経済が成長して行くために必要な戦略・方向性を明確にすることで、5年後のあるべき姿・目標を役職員全員の共通認識とし、個々の事業を系統立て、機動的に行うための中期行動計画を策定いたしました。

今後は、本計画に定めた行動指針に沿って地域の成長に向けた取組を積極的に推進するとともに、随時、進捗状況・成果等の検証を行う中で、柔軟な見直しを行い、会員事業所の皆様の期待に応えて行きたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成24年9月

福山商工会議所 会頭 林 克 士

中期行動計画 平成25年～29年

～福山 地域経済の成長戦略～

目 次

1. 計画策定の背景(地域の現状).....	1
2. 今後の活動理念	2
3. 理念実現に向けた現状分析と戦略目標	3
①福山商工会議所・福山地域の現状(SWOT分析)	
②『クロスSWOT分析』と戦略目標	
4. 理念実現に向けた事業の展開方向	7
①中小・小規模企業の潜在力強化	
②産業の発展と潜在力強化	
③地域資源を活用した都市力の創造	
5. 中期行動計画の検証スケジュール	10

1. 計画策定の背景 (地域の現状)

福山市は、もともと地場の繊維産業を中心とする軽工業に支えられた地方都市であったが、昭和41年8月の日本鋼管(株)福山製鉄所の創業により、わが国経済を担う重工業都市へと大きく転換し、瀬戸内海における臨海工業地帯として脚光を浴びることになった。

平成10年には中国地方としては岡山市に次いで2番目となる「中核市」へ移行、また「平成の大合併」により4町と合併し、現在人口約47万人を擁する県内第2位、中国地方第4位の都市規模を有している。

福山市の「工業」については、平成22年工業統計調査によると、事業所数は1,347事業所で、県内第1位であるが、平成17年から比較すると10%以上減少し、また、付加価値額は2,905億3,200万円で60%減少するなど、円高の進行により輸出関連企業等が影響を受けたと見られる。

福山市の「商業」については、平成19年商業統計調査によると、平成19年の福山市の商店数は5,905、平成16年比9%

減少し、従業者数は43,520人と4%減少となった。年間商品販売額は1兆5,325億円、6%増加した。業態で見ると、コンビニエンスストア、ドラッグストアが商店数、従業者数、年間商品販売額とも伸びており、特にドラッグストアは従業者数34%、年間商品販売額が22%伸びているなど、業態間格差が広がりをみせている。

一方で、中心市街地や地域に根ざした小規模小売店舗は減少しており、それは、平成23年流動客調査における流動客数にも影響している。福山市中心部地区41地点で平成11年と平成23年を比較すると、12年間で平日30%減、休日40%以上の減少となった。また、大規模小売店舗の入店客数も駅前店、郊外店の平日、休日とも15%~45%減少している。これらの要因としては、ライフスタイルの変化や消費活動の広域化、個人消費の伸び悩み、通信販売やインターネット販売等の販売手法の多様化、専門量販店等郊外大型店の新規出店、集客力のある駅前既存大型店の撤退等が考えられる。しかし、アイネスフクヤマ、ローズコムと

いった新規の商業施設や文化施設周辺の流動客は増加しており、また、平成24年3月、50万都市にふさわしい、鉄道、バス、タクシーなどの交通拠点として、JR福山駅前広場がリニューアルし、整備されたことにより、中心部賑わい創出に期待感も高まっている。

また、海の玄関口、箕沖地区の福山港は、中国・韓国に向けた県東部のアジアゲートウェイとして、「福山港国際コンテナターミナル」として整備され、水島港とともに「国際バルク戦略港湾」に選定されるなど、今後一層の発展が期待されている。

福山商工会議所としては、以上のような現状を踏まえ、福山市の持つポテンシャル(潜在力)の強化を図り、地域全体の活性化を目指す様々な事業を積極的に展開していく必要がある。

2. 今後の活動理念

常に地域経済社会をリードしてきた福山商工会議所が、今後も会員事業所や地域から必要とされる地域総合経済団体としてあり続け、「信頼される商工会議所」として更には「なくてはならない商工会議所」を目指すためには、行政や関係機関との連携をさらに強化し、地域特性に配慮した積極的な事業を行い、当地域の成長を目指して行く必要がある。

限られた経営資源の中で様々な課題に対応し、会員事業所や地域産業、加えて当地域全体が活性化し成長して行くためには、地域の情勢や社会のニーズを的確に捉え、個々の企業、産業構造、地域特性等の強み・弱みを正しく判断し、どのような領域に注力するのか、その方向性を明確にしなければならない。

さらに、常に5年後を見据えた戦略的発想と系統立てた事業展開、並びに事業の選択と集中による目的の明確化を図り、そこへ経営資源を集中させていくことで、もてる機能を存分に発揮できるものと考えられる。

このため、「強みを活かし、地域の発展を目指す」ことを中期の基本方針とし、今後目指すべき3つの活動理念を次に掲げる。

(1) 中小・小規模企業の潜在力強化

中小・小規模企業は、製造業、商業、サービス業等広範な分野で地域の産業活動を支え、雇用の維持・創出にも重要な役割を果たしてきている。多様で、群として存在する中小・小規模企業の潜在力を引き出すことは、経済社会の活力を維持するために不可欠なものであり、資金面や人材の確保・育成、技術力の向上やIT化、グローバル化への対応など様々な課題解決に向けて積極的な役割を果たして行く必要がある。

(2) 産業の発展と潜在力強化

当地域は古くからさまざまな地場産業が集積し、隆盛を極めた全国的にも珍しい地域であり、現在も伝統型産業、重厚長大型産業、ハイテク産業など多種多様な業種、オンリーワン・ナンバーワン企業が集積し、ものづくりの盛んな地域として発展してきた。一方、情報、デザイン、専門サービスなどの都市型サービス産業は遅滞しており、弱みの一つとなっているが、都市の魅力という観点からは欠かせない産業である。当地域の成長エンジンとしての役割を

担うものづくり産業の振興とともにサービス産業と融合した新たなビジネスモデルの構築など新たな価値の創造に向けて、果敢に挑戦して行かなければならない。

(3) 地域資源を活用した都市力の創造

当地域は、景勝地「鞆の浦」や都市の玄関口である福山駅に隣接した福山城、及びその周辺に広がる美術館や博物館などの文化ゾーン等の観光資源を有し、生産量日本一を誇る琴や下駄、保命酒やくわいなどの全国に誇れる特産品も多数あるにも関わらず都市の知名度が低いのが現状である。今後、都市間競争に打ち勝ち、福山地域が成長して行くためには都市ブランドを確立し、都市の魅力を向上させることが重要であり、観光資源や歴史・文化に加え企業の持つ技術や製品など様々な分野を融合させ、新たな魅力の創出を目指して行かなければならない。行政や関係機関との連携を深め、諸施策を有効に活用し効果的な取組を進めて行くことが不可欠である。

3. 理念実現に向けた 現状分析と戦略目標

「強みを活かし、地域の発展を目指す」という中期行動計画基本方針の実現のため、3つの活動理念を掲げたが、福山商工会議所・福山地域の現状を『SWOT分析』の手法により明確にするとともに、新たなアクションを探り、地域成長戦略を創出するため、さらに『クロスSWOT分析』により、3つの活動理念ごとに戦略目標を掲げる。

①福山商工会議所・福山地域の現状（SWOT分析）

《内部環境》

《外部環境》

強み (Strengths)	機会 (Opportunities)
<ul style="list-style-type: none"> ○歴史を有する地域唯一の総合経済団体 ○中小企業振興支援の地域中核団体 ○税理士・中小企業診断士等との連携 ○国・県・市等行政機関、大学等学術・研究機関との強固なネットワーク ○専有の事業(制度融資、検定、共済等)による優位性 ○豊富な経験を有した専門家・経営指導員を配置した総合相談所の設置 ○政策実現に向けた意見・要望活動 ○マウイ日本人・浦項商工会議所との交流 ○建物運営、共済事業等の収益事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○多種多様な分野でのオンリーワン・ナンバーワン企業の存在 ○温和な気候と災害の少なさ ○広島県内第2の備後中核都市 ○駅前整備完了、道路・鉄道網の充実、港湾整備の拡充 ○全国的知名度と歴史を有する景勝地『鞆の浦』、駅に近接した福山城の存在 ○伝統産業(琴・下駄・保命酒等)、伝統祭事(お手火神事等)・文化(うずみ料理・能・書道等)の存在 ○芸術文化施設(リーデンローズ・ふくやま美術館・県立歴史博物館)の充実 ○友好親善都市との国際交流
弱み (Weaknesses)	脅威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> ○会員事業所数の伸び悩み ○収入の伸び悩み ○会員入会メリット ○多様化した会員ニーズの把握 ○職員資質のレベルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化、生産年齢人口の減少 ○産業構造の変化、業種間競争激化 ○グローバル競争の激化に伴う産業空洞化 ○円高、原油高に伴う景気悪化を受けた企業収益力の低下 ○消費者志向の多様化、個人消費の低迷 ○岡山・倉敷の都市力進展

②『クロスSWOT分析』と戦略目標

1) 中小・小規模企業の潜在力強化

●強みと機会

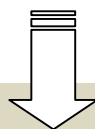
・専門家、各関係機関との強固なネットワークを活かし、中小企業総合相談所のワンストップ・サービス機能により、経営力向上に向けた指導ができる。

●弱みと機会

・専門家等とのネットワークを活かすうえでも、経営指導員の資質向上並びに会員事業所ニーズを把握することは必須である。研修会へ積極的に参加し、指導力向上を目指すとともに、アンケート調査や巡回等により会員事業所が求めるものへ着眼する必要がある。

●強みと脅威

・産業構造の変化とともに企業の収益力が低下している中で、専門家と連携した経営指導により、既存事業の見直し、異業種分野への進出、新規創業への支援を強化する必要がある。



戦略目標

中小企業総合相談所機能の強化

経営指導員の資質向上と会員事業所ニーズの把握

新規創業支援の強化

2) 産業の発展と潜在力強化

●強みと機会

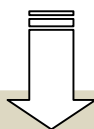
・地域唯一の総合経済団体としての意見・要望活動を積極的に展開することにより、活力ある都市基盤の整備を図ることができる。また、全国に張り巡らした会議所間ネットワークを活かし、取引紹介や海外展開等企業の国際化支援、ビジネスマッチングを積極的に展開し、企業の新規顧客開拓に貢献できる。

●弱みと機会

・既存のものづくり産業の振興を図るとともに、サービス産業と融合した新たなビジネスモデルを構築することで、地域の産業基盤の確立を図る必要がある。

●強みと脅威

・生産年齢人口の減少により、社員一人ひとりの資質レベルアップを図り、人的生産性の向上を図ることは必須である。講習・講演会の開催、従業員の資格取得支援を積極的に実施する必要がある。また、タウンマネージャーを配置した中心市街地活性化を図り、都市中心部の魅力を高める必要がある。



戦略目標

活力ある都市基盤の整備と企業の新規顧客開拓支援

新たなビジネスモデルの構築による産業基盤の確立

人材育成による企業生産性の向上支援と中心市街地活性化

3) 地域資源を活用した都市力の向上

●強みと機会

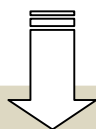
・鞆の浦などの観光資源、琴・下駄・保命酒などの伝統産業、ナンバーワン・ナンバーワン企業の存在と、瀬戸内海を中心に位置する地の利を活かした、広域的な新たな観光モデルを創造することができる。

●弱みと機会

・伝統産業(琴・下駄・保命酒等)と伝統祭事(お手火神事等)や伝統文化(うずみ料理・能・書道等)の振興、継承、また、それらを融合させた新たな地域文化の発掘を支援することにより、文化とものづくりとサービスが一体となった付加価値のある新たなビジネスモデルの創造が可能となる。

●強みと脅威

・閉塞感の漂う経済社会において、都市間競争に打ち勝ち、都市の魅力を高めるため、地域の活性化を担う若手リーダーの発掘・育成の支援を行い、集客力のあるイベントの開催やものづくり企業とのコラボレーションが図られ、地域賑わいの創出並びに都市ブランドの確立を図ることができる。



戦略目標

企業、観光・伝統産業資源と地の利を活かした新たな観光モデルの創造

伝統産業と伝統祭事・文化を融合させた新たなビジネスモデルの創造

地域活性化を担う人材の発掘・育成と都市ブランドの確立

4. 理念実現に向けた事業の展開方向

5年後のあるべき姿を目指すうえで、目標達成へのプロセスを検討するにあたり、すでに掲げた「戦略目標」に沿ったものであると同時に、「会員」・「予算」・「事務局体制(協力体制)」・「人材」の4つの視点をさらに加味し考察した。

① 中小・小規模企業の潜在力強化

平成29年のあるべき姿

- 中小・小規模企業の資金調達や資金繰りが改善され、安定的な経営が図られている。
- 経営革新等により、生産性の向上、経営の効率化が進むことにより、企業力が向上している。
- 創業が活発に行われ、新たな雇用が創出されている。

目標達成へのプロセス

- 事業所の現状・ニーズの把握(巡回の強化)及びニーズに合わせた各種事業を実施する。
- 施策・事業の周知を徹底する。(巡回の強化、HP・所報等の有効活用等)
- 職員の資質向上を図ることによる支援体制を強化する。
- 全国成功事例の収集・研究・分析と関係支援機関等のネットワークを強化する。
- 創業・新事業展開事業所への支援を行う。(IT化支援、エコアクション21取得支援等)

アクションプラン

- 中小企業総合相談所の積極的展開
 - ・経営カルテの整備
 - ・マル経の推進、制度融資一覧表の作成・配布
 - ・専門家によるワンストップ相談窓口による高度な問題解決
- 経営指導員等の巡回の強化
 - 事業のシーズ発掘・ニーズ把握
- 職員の研修会等への積極的参加
- 会員相互の異業種交流会の開催
- 創業塾・創業フォローアップ講座の開催
- IT化・環境経営支援のための講習・講演会の開催

②産業の発展と潜在力強化

平成29年のあるべき姿

- オンリーワン・ナンバーワン企業の国内外競争力が強化されるとともに、同異業種間のビジネスマッチング(ものづくり産業とサービス産業との融合等)により、既存事業の高付加価値化と新たな事業展開により、新規のナンバーワン企業等が誕生している。
- 都市の玄関口である福山駅前(伏見町地区)の再開発が進み、周辺の大規模店、商店街等商業ゾーンの回遊性が一体的となり、中心部の活性化が進んでいる。
- 国際競争力のある物流拠点として新たなコンテナ定期航路が誘致され、第3バースなどの関連施設整備が進み、国際バルク戦略港湾政策等が推進されている。また、海外企業の進出も視野に入れた産業団地が造成され、企業立地環境の充実が図られている。
- 従業員に対する企業の資格取得奨励効果により、人材育成が図られ、従業員一人当たりの生産性が向上し、企業収益に貢献している。

目標達成へのプロセス

- 会議所間ネットワークを活用した全国ベースでのビジネスマッチングを推進する。
- 人材育成支援、空き店舗対策など、街づくり・商業活性化等への行政、関係機関、専門家等による支援体制を強化する。
- 行政、港湾関係団体、港運業者、輸出入業者との連携を強化し、ニーズに応じたタイムリーな要望活動を展開する。
- 福山市を中心とした行政機関等との連携を密に、企業誘致推進に向けた協議会の設立を検討する。
- 企業が重要視する資格ニーズの調査・把握を行う。

アクションプラン

- ビジネスマッチングフェアの広域開催
- ザ・ビジネスモールの活用・推進
- 企業、関係機関等による情報交換会を設置、専門家等による支援体制の整備
- タウンマネージャーの発掘等人材育成の実施
- 大型店と商店街が連携した面的広がりによる継続的な賑わい回復と集客力UPに向けた事業展開
- 福山港及び松永港、尾道糸崎港(機織地区)の利便性向上に向け官民一体となった要望活動と新荷主発掘並びに国内外でのポートセールスへの協力
- 企業誘致促進活動に向けた市との連絡会議の開催
- 企業ニーズに対応した資格の取得促進PR活動の推進
- 充実したカリキュラムによる検定対策講座等の実施

③地域資源を活用した都市力の創造

平成29年のあるべき姿

- 景勝地「鞆の浦」の整備が進み、観光資源としての魅力が増すとともに、東の倉敷、西の尾道の上に位置する立地を活かした、観光面における広域連携が確立し、観光地としての魅力が増し、海外からの観光客も増えている。
- 生産量日本一や歴史的な特産品がJAPANブランド等として認知され、地域資源の価値が向上して、国内外に広く認知、販売されている。
- 福山の伝統産業（琴・下駄・保命酒等）と伝統祭事（お手火神事等）や伝統文化（うずみ料理・能・書道等）がそれぞれ継承・振興し、またそれらを融合した付加価値のある新たなビジネスが誕生している。
- 福山城をはじめとする歴史文化ゾーン等を活用したアート等の文化、芸術的イベントが数多く開催され、地域文化・観光の振興とまちの賑わいが増している。

目標達成へのプロセス

- 地域の特性を活かした新たな観光モデルの創造と、鞆の浦への交通網並びに駐車場の整備等観光客の受け入れ体制を整備・強化する。
- 広域観光連携のための各地商工会議所や行政・民間等関係機関との協議会を発足させる。
- 既存地域資源の活用に関する研究と行政等関係機関と連携した積極的なプロモーション活動を展開する。
- 福山の伝統的な産業・祭事・文化分野における関係機関との連絡を強化する。
- 地域の活性化を担う若手リーダー等の発掘・育成、文化人ともものづくり企業との交流・連携を強化する。

アクションプラン

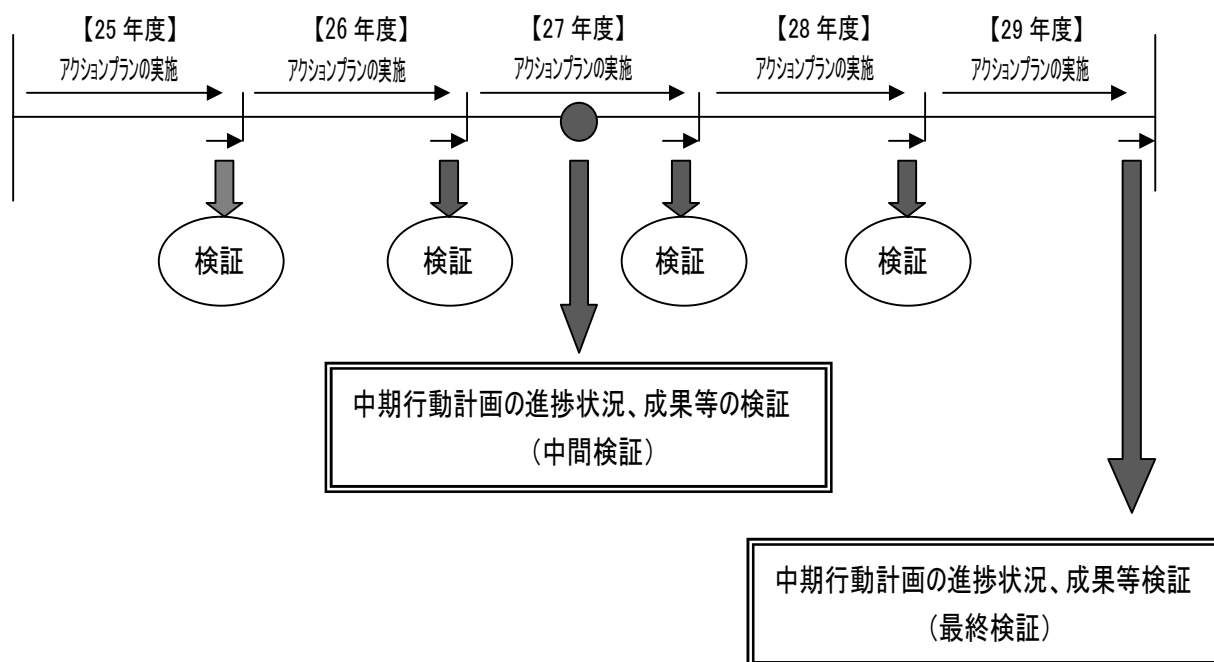
- 歴史・文化などの観光資源と産業施設を融合したさまざまな観光ルートの調査・研究
- インバウンド観光推進に向けた外国人観光客誘致策の調査・研究
- 保命酒JAPANブランド育成支援事業の実施
- 地域資源を活用した既存商品のブラッシュアップと新たな地域資源の発掘・調査
- 魅力ある新製品の開発、販路拡大と観光客誘致に向けた宣伝・広報活動
- 福山ばら祭・夏まつりなどの春・夏大規模イベントに加え、秋の「アートウォーク」、「手しごと自慢市」、そして冬にも各団体が広域連携した大規模イベント等の開催

5. 中期行動計画の 検証スケジュール

中期行動計画に掲げたアクションプランについては、毎年当該年度の活動内容について検証を行い、次年度活動へ向けての改善等検討する。

また、中期行動計画全体の進捗状況・成果等の検証については、中間検証を3年目の平成27年度に実施し、5年目の平成29年度に最終検証を行う。

<スケジュール>



発行：福山商工会議所

The Fukuyama Chamber of Commerce and Industry

〒720-0067 福山市西町2-10-1

TEL (084) 921 - 2345 FAX (084) 922 - 0100

URL :<http://www.fukuyama.or.jp>

E-mail : cci@fukuyama.or.jp